

令和7年度広瀬川における天然アユ遡上調査結果（5月分）

令和7年6月30日
宮城県水産技術総合センター

宮城県水産技術総合センターでは、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、天然アユの遡上状況を調査しています。本年度の5月分の調査結果は、以下のとおりです。

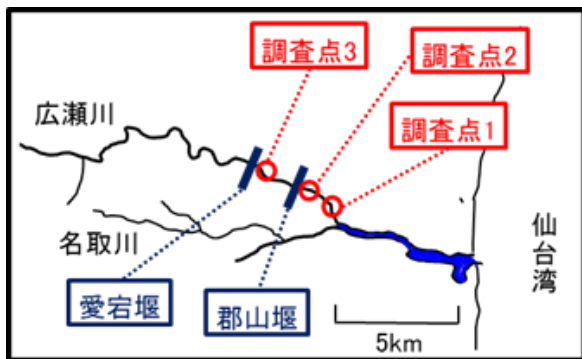


図1 アユ遡上調査地点

（1）調査点

調査点1：名取川との分岐点から

500m上流（河口から7.5km）

調査点2：郡山堰下（河口から10km）

調査点3：愛宕堰下（河口から11.5km）

（2）調査実施日

5月15日、30日

（3）調査方法

各調査点において、投網を10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、1調査点あたり50尾のアユを当场に持ち帰り、体サイズ（標準体長および体重）を測定しました。広瀬名取川漁業協同組合では、調査日以前に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。また、令和5～6年度は北上川産天然種苗の放流も行っており、広瀬川の天然アユとの区別はできませんでしたが、総数に対して少数なので、補正には考慮していません。



図2 調査風景①



図3 調査風景②

(4) 調査結果

各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの最大値と最小値を除いた平均値及び直近3ヶ年）を図4に示しました。また、アユの平均体長を表1に示しました。また、令和5年度は人工種苗の判別を行っていませんが、最上流の調査点3よりも上流で放流していること、これまでの調査でも混入率が小さかったことから、すべて天然アユとして取り扱っています。

○調査点1

投網1投あたり9.3尾（5月上旬）、29.8尾（5月下旬）でした。上旬、下旬とも昨年度よりも尾数が減少していました。また、昨年度と比較すると体長はやや大型化の傾向がみられました。

○調査点2

投網1投あたり136.7尾（5月上旬）、27.1尾（5月下旬）でした。5月上旬は過去10年の中でも最も多くのアユが採捕されました。また、昨年度と比較すると体長は同等でした。

○調査点3

5月上旬は採捕されず、下旬は投網1投あたり32.0尾でした。上旬、下旬ともに昨年度よりも減少していました。また、昨年度と比較すると体長はやや大型化の傾向がみられました。

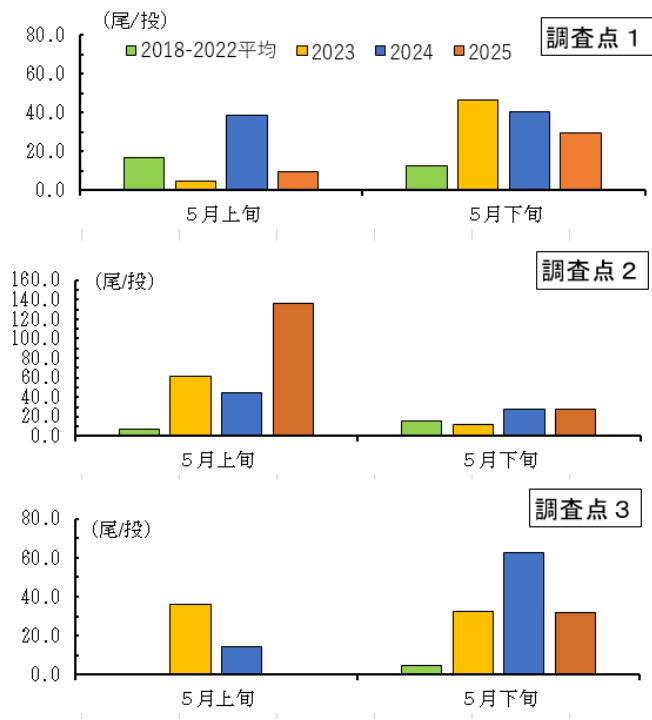


表1 各調査点のアユの体長

採捕年月	調査点1		調査点2		調査点3	
R7.5月	8.38	± 1.76	7.57	± 1.91	9.1	± 1.78
R6.5月	7.74	± 1.53	7.24	± 1.47	8.06	± 8.61

単位：cm、±は標準偏差（標本のばらつき）

図4 各調査地点における天然アユの平均採捕尾